

平成15年度受賞パンフレット



—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

第1回 オーライ!ニッポン大賞



日本の棚田百選 よこね田んぼでの体験風景

第1回 オーライ/ニッポン大賞

今年度は本表彰事業の初年度です。それだけに国民各位の関心の度合いに幾分の不安がございましたが、全国各地から160件もの多数の応募がありました。応募地域は北海道から沖縄にまでおよんでいます。既に優良な活動をされて他の地域の参考となっている地区からの応募も多数ありました。また、NPOや民間団体の応募も多くありました。応募の件数の多さと、その全国的な広がり、都市からの農村への働きかけによる都市と農山漁村の共生・対流が全国的に推進されている状況を確認するものです。

審査委員会における審査基準(*)は7つです。それをもとに、専門を異にする各委員が熱心に議論をし、様々な角度から評価を行いました。特に「都市と農山漁村が行き来している取り組みであること」、「地域に刺激や影響を与えていること」、「長年にわたり活動を継続していること」、「都市と農山漁村のお互いの住民が元気になるような取り組みであること」、「他の地域の参考となる取り組みであること」などの点を重視しました。全体として言えるのは、どの取り組みも優れたものだという事です。それだけに、160件もの応募の中からオーライ/ニッポン大賞6件を選ぶのは実に至難の作業でした。さらに、グランプリの決定にあたっては、受け入れ側(農村)の取り組みである飯田市と、人を送り出す側(都市)の取り組みである武蔵野市教育委員会とが、最後まで優劣を競いました。最終的に、飯田市が周辺の町村、民間団体等を巻き込んで第3セクター組織まで立ち上げた点が高く評価され、初年度のグランプリに選ばれました。武蔵野市教育委員会のセカンドスクールは、グランプリこそ逃がしましたが、全国に先駆けた取り組みとして、このような取り組みが全国の小・中学校に広がれば、子供たちの輝きが増すことは確実だと見込まれ、準グランプリに相当するという好評価を得たことを申し添えます。

(*)オーライ/ニッポン大賞 審査基準

- ア 農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
- イ 地域の個性を生かした取り組みであること。
- ウ 農山漁村地域を活性化する効果があること。
- エ 都市側、農山漁村側双方の住民の参加を促進する取り組みであること。
- オ 長期的な取り組みの実績があること。
- カ 効果が持続して発現すると見込まれること。
- キ 他の地域における応用性に富んでいること。

オーライ!ニッポン大賞 グランプリ

いいだし
飯田市

内閣総理大臣賞

ながのけん いいだし
長野県 飯田市



オーライ!ニッポン大賞
グランプリ

講評

周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第3セクターである(株)南信州観光公社を立ち上げ、400戸以上の農家の協力を得て、年間220校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れ、体験学習の普及推進に大きく寄与している。農業体験は、生徒が数名ずつ分かれて宿泊した農家の日常の農作業に加わって行うという本物志向。体験メニューも年間を通じて100以上のプログラムが用意されており、大変充実している。

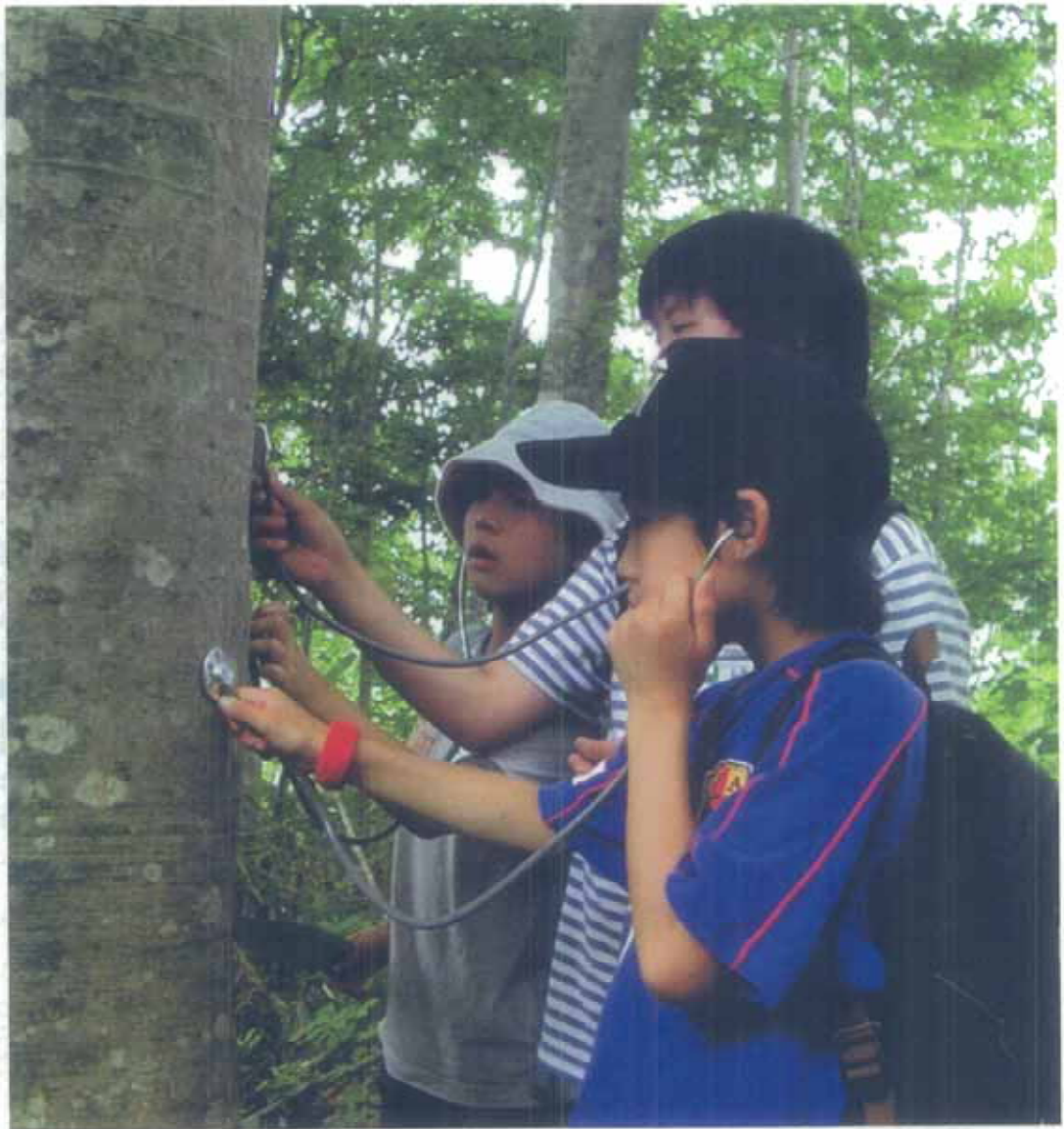
また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、年間200名を超える人々が訪れる中で、地域で活躍するインストラクターが約300名も育ち、体験受け入れ農家数も100戸になるなど、地元住民や高齢者にとっては生きがいに繋がる活動となっている。

都市と農山漁村のお互いの暮らしが豊かになる取り組みであり、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている点が高く評価された。

オーライ!ニッポン大賞

むさしのしきょういくいいんかい
武蔵野市教育委員会

とうきょうと むさしのし
東京都 武蔵野市



講評

武蔵野市は小学5年生と中学1年生全員を対象として、1週間程度、農山漁村に滞在して農業等の体験学習を行う長期滞在型のセカンドスクールを全国に先駆けて実施している。子供たちの自然や農山漁村の人々とのふれあいを通じた経験は大きな教育的な成果をあげており、その交流がセカンドスクール終了後も継続している。

また、セカンドスクールは希望者を対象として行うのではなく、教育プログラムとして参加は義務と位置付けるとともに、学校教育の中で長期宿泊体験教育を行うための解決すべき問題点や課題を明らかにし、学校、教育委員会、受入先の三者が試行錯誤しながら解決していている。その結果、セカンドスクールを実施するシステムも確立し、生徒を送り出す側として極めて優れた取り組みとなっており、大きな広がりをもって展開している点が高く評価された。

オーライ!ニッポン大賞

いしかわ ともものぶ
石河 智舒

とちぎけん もてぎまち
栃木県 茂木町



オーライ!ニッポン大賞

講評

石河氏は1960年代までは薪炭や葉タバコの生産が盛だった栃木県茂木町元古沢地区がだんだんとその生産も衰退し、働き手が外に出ていってしまう状況を深刻に受け止め、ゆずに着目した地域興しに取り組み、地域住民の合意形成による地域ぐるみの活動として農家13戸全戸による「八溝ゆず生産組合」を発足させた。平成5年にはゆずのオーナー制度を開始し、現在では600人を超え、1万本のユズが植えられ、年間2万人の観光客が集まるようになった。また、「ゆずの里かおり村」を開設し、都市住民を「かおり村の村民」とするなど継続的に交流できるシステムを作り出した。

この取り組みにおける石河氏のアイデアと行動力は大きく、地域づくりのリーダーとして今の中山間地域に最も求められる人材である点が評価された。

オーライ!ニッポン大賞

きゅうしゅう だいがく
九州ツーリズム大学

くまもとけん おぐにまち
熊本県 小国町



講評

「九州ツーリズム大学」は、農山村でのツーリズム実践者やコーディネーターの人材の育成などを目的に多様な講師陣により、基礎から実践まで広くプログラムを実施している。その活動は全国に先駆け、より質の高いグリーン・ツーリズムを求め、ユニークな充実したプログラムに基づくグリーン・ツーリズムの担い手の人材育成を実施している。このことは全国的に見て模範的な活動として知られているところである。開校から7年、受講生は昨年度で900名を超え、この取り組みはパイオニア的存在であり、全国的に波及し各地でツーリズム大学の開校が相次いでいる。また、フィールドワークの講師として地域住民が参加するなどこの取り組みに地域住民が一体となって取り組んでいる点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

げいじゅつむら たざわこ芸術村・わらび座

あきたけん たざわこまち
秋田県 田沢湖町



オーライ！ニッポン大賞

講評

昭和52年から農業体験学習旅行を受入れて以来、26年間にわたり継続して実施している。専門のコーディネーターを配置するなど、近隣の農家と綿密な連携により、関東、関西の中学・高校など年平均10校1500人の生徒を、秋田県仙北郡、平鹿郡、河辺郡、北秋田郡にまたがる20市町村の農家300軒ほどで広域的に受入れている。この取り組みを通じて、農家の方々との温かいふれあいを経験するなど長年都市と農村の橋渡しに貢献しており、また、都会の子供たちと受け入れ農家の双方に活力や様々な効果が生まれてきている点が評価された。

オーライ!ニッポン大賞

のうじくみあいほうじん 農事組合法人 いが さと て 伊賀の里モクモク手づくりファーム

みえけん あやまちょう
三重県 阿山町



講 評

農業生産から交流まで一貫した取組みであり、平成7年以降、農業を感じてもらう場、生産者と消費者、地域住民の触れ合う場としてモクモク手づくりファームを創設。

その後、「農業」、「自然」、「手づくり」のテーマパークとして活動を展開し、「おいしさと安心の両立」したものづくりをモットーに、ハム・ソーセージ等の生産・加工・販売まで行っており、年間50万人の来園者がある

また、「手づくり体験教室」を通じて都市住民との直接交流が進む中で、高品質な商品開発と近隣市へのテナントレストランの展開、全国約3万世帯の会員組織など積極的な経営戦略へ繋げており、安定した事業基盤を築き上げている点が評価された。